

A 級審査会（最終審査） 派遣報告書

令和3年12月10日

U12 部会 三木大助

大会名：A 級審査会（最終審査）

会場：東海大学九州

期 日：令和3年11月20日（土）

担当試合：3 試合目 東海大学九州 対 日本経済大学（女子）

CC：三木大助（鹿児島） U1：末信優華（福岡） U2：澤邊匡佑（熊本）

【プレゲームカンファレンス】

まず、会場に到着後、第1試合の同じカードを3人で観戦して、両チームのプレイの傾向、キープレイヤー、判定基準の擦り合わせ等を行いました。

その後、一通り試合に向けた準備を下のちに、プレゲームを審判控室にて行いました。

試合に臨むに当たって、より良い判定に繋げるためにメカニクスを中心にじっくり1時間かけてすり合わせを行なった。とにかくベーシックなメカニクスの実践を3人で徹底してチャレンジしていきましょうと話を進めていきました。その中で、

- ・ ボールサイド2 = ストロング・サイドを作るための良いタイミングのローテーション
 - ・ しっかりとしたチェック・インとチェックング・アウト
 - ・ チェック・インで導き出した結果をポジション・アジャストにつなげる
 - ・ そこからさらにキープ・アジャスティング・ポジションで最終局面を捉える
 - ・ より良いローテーションのためのチェックング・アウト 簡単に手放さないこと
 - ・ 何をチェック・インするかを明確にするためのレフリー・ディフェンス
 - ・ センター側でのトラップやミッドレーンのプレイへの対応の仕方
 - ・ 誰がどのアクティブなマッチアップが確認できているか3人の協力の仕方
- などを、リーグ戦等の実際のチームの映像を交えながらすり合わせを行いました。

【オンザゲーム】

(1Q)

ゲームの展開としてプレカンで打ち合わせた通り九東は#1と#3を中心にオフェンスを組み立て、日経はインサイドの#13などの留学生を中心に周りがスピードのあるバスケットを展開していきました。

特に九東#3がハイポストに立って、そこからの展開があったり、日経はそこに対してディフェンスがかなりタイトについたり、プレカンで打ち合わせたような展開があったので、予測して捉えることができました。

立ち上がりから後の二人がプレカンで打ち合わせた通り積極的にローテーションにトライして、プライマリーのコールもして行ってくれたので、ゲームの入りとしては、とても入りやすかったです。

(2Q)

1Q でファウルカウントが徹底できていないところがあったので、3人ですり合わせて入りました。3人で協力してファウルを積み重ねながら、ツーモア、ネクストの声かけをしていった結果、両方のファウルのバランスも良く、ボーナススローを逃さずスムーズに進めていくことができたので、とても良かったです。

(3Q)

ハーフタイムで再度メカニクスのすり合わせを行い、チェック・イン、チェックング・アウトの受け渡しや、アイコンタクトからのスムーズなローテーションが出来ました。また、九東#3へのディフェンスについては、再度、注視してみましようと思いましたが、明らかにディフェンスを両手で跳ね除けるプレイがあり、オフenseファウルとなるケースがありました。その後のスイッチも乱れてしまったので、自分達の中でそのストレスの原因をしっかりと把握する必要がありました。

(4Q)

4Q に入り日経のメンバーが変わってきた中で、再度、テンポセットするつもりで判定を重ねていきました。日経がコーナーからの3Pを狙うプレイで、ゴールしたから出てくるディフェンスに対するイリーガルスクリーンがノーコールになってしまうケースがあり、特にセンター側でのプレイの時には両方のプレイを捉える工夫が必要だったと感じました。

【ホストゲーム】

ゲーム終了後のクルー間でのホストゲームでは、まずプレカンで打ち合わせたベーシックなメカニクスの徹底について、2人が積極的にトライし続けてくれたことが良かったです。特に2Q はしっかりとファウルカウントのコミュニケーションをとることで、バランス良くファウルを積み上げることができ、ボーナススローも逃さずスムーズに進められたので良かったです。ただ、リードからオフenseファウルをコールした後のスイッチが乱れてしまったので、そこは3人のすり合わせが必要でした。また、終始、九東#3がストレスを溜めてオフenseファウルを吹かれることがあったが、最後までストレスの原因を掴み切ることができなかつたので、3人で協力してより厚く目をあてて置く必要がありました。

自分自身としては、チェックインを意識するあまり、動き過ぎてアングルが切れてしまうケースがあったこと、また、後から映像を見返してみると九東#3のストレスの原因として、ディフェンスの悪い手や寄せによってFOMを侵されているところがあったので、もっとレフリーディフェンスを徹底して、早目にストレスを解消してあげる必要があったこと、不必要な動きや判定を削っていく必要があったと感じました。最後まで3人で協力して、ゲームを進めていけたのは良かったです。

今回、A級候補として推薦をいただいてから、コロナ禍での延期等もあり、約2年間でしたが、いろいろなアドバイスや指導をいただき、高いレベルでの経験をさせていただき、未熟な自分の判定技術や立ち振る舞いなど本当に多くのことを学ばせていただきました。関わっていただいた全ての皆様に感謝申し上げます。

この感謝の気持ちを忘れず、これからの審判活動で少しずつでも恩返ししていけるように、まだまだ未熟ですが経験を重ねながらレベルアップしていきたいと思えます。